



Lend a Hand
手を貸そう

国際ロータリー第2750地区多摩東グループ
東京多摩グリーンロータリー・クラブ

Weekly Report



クラブ会長テーマ 手を貸そう! そして強く握ろう!

2003-10-8 第624回例会 NO. 14-13 2003-10-15 発行

多摩東グループ インターシティミーティング

◇日時: 2003年10月8日(水) 13時 開会
◇会場: 調布市文化会館「たづくり」

◎開会点鐘 総合司会 グループ幹事 栗山 正美
ガバナー補佐 高木 光

◎国歌・ロータリーソング「奉仕の理想」斉唱
ソングリーダー 渡辺 晴俊

◎開会挨拶 ガバナー補佐 高木 光

◎歓迎挨拶 ホストクラブ会長 曾我 光夫

◎来賓・参加クラブ紹介 ガバナー補佐 高木 光

◎物故会員に黙祷 ガバナー補佐 高木 光

◎ガバナー挨拶 第2750地区ガバナー 鈴木 正二様

◎卓話「歴史に学ぶロータリーの本質」
第2750地区パストガバナー 秋山 一様



◎閉会点鐘 ガバナー補佐 高木 光

—休憩 30 分後—

◎記念講演「我が国の現状と今後の課題」
城南信用金庫名誉会長 真壁 實様



【当クラブ出席状況】

- ・会員総数 43名
- ・出席義務者数 42名(出席免除者4名)
- ・出席者数 31名
- ・欠席者数 11名(事前MU1名)
- ・出席率 76.19%
- ・欠席者: 阿部 華歌、萩生田政由、平野 行廣、伊藤 英也、小泉 博、小田 泰機、佐伯 和廣、菅井 信夫、高木 淳光、高野 範城、由井 眞司
- ・補填MU: 阿部 華歌 9/30 東京多摩RC

9/24 最終訂正出席率 75.61%

東京多摩グリーンロータリー・クラブ事務局

東京都多摩市落合1-43 京王プラザホテル多摩561号
TEL 042(372)6463 FAX 042(372)6491
E-mail tamagrc@cello.ocn.ne.jp

【例会場】京王プラザホテル多摩・たまつばき4階

【例会日】●毎週水曜日12:30 ●月の最終例会18:30

【会長】大松誠二 【幹事】藤本吉文

【クラブ会報委員長】赤尾恭雄 【副委員長】正房正孝

【委員】遠藤二郎・平野行廣・佐伯和廣・澄川昇・高木淳光・由井眞司・小田泰機

【懇親会】

会場：調布市グリーン小ホール

司会進行 IM実行副委員長 野田 孝幸

◎開会挨拶 IM実行委員長 早瀬川 晶

◎ガバナー所感 第2750地区ガバナー 鈴木 正二様



◎乾杯 第2750地区ガバナーエレクト 仲田順和様

— 歓 談 —

◎閉会挨拶 コ・ホストクラブ会長 村松 克彦

♪ロータリーソング「手に手つないで」♪
ソングリーダー コ・ホストクラブ 中野 陽一

(例会担当：澄川 昇)

10月は「米山月間」です。

*当初は米山梅吉氏の命日4月28日の前後1週間が米山週間でしたが、現在は10月を特別月間として強調しています。

米山奨学事業に理解を深めましょう！

★「ロータリーの友」拾い読みコーナー★

「ロータリーの友」9月号〈よねやまだより〉

卓話で知る留学生の心

「心を言葉にのせて」 2001～03 米山奨学生
石 暁紅さん (中国出身/新潟大学大学院)

あるボランティア体験を通して

昨年1月、新潟市国際交流協会が主催する国際フェスティバルに中国語・中国文化講座の講師としてボランティアで参加しました。教師になることを夢みてきた私は、講師として少しでも中国に関心を持ってもらえるよう張り切って準備しましたが、本番が近づくにつれ不安を感じ始めました。何故なら、私を含めて、身近にいる留学生の間で、「日本人はアジアの文化を見下している」、「アジアより欧米の文化に熱心である」というイメージがあ

ったからです。

そんな私の不安は、教室に入った途端に吹き飛ばされました。大勢の皆さんが笑顔と拍手で迎えてくれ、笑い声の絶えない、楽しい1時間でした。

その夜、受講者の女性からメールが届きました。講座の感想とともに「先生の締めくくりの言葉に感動しました。これから息子にも心のある言葉を教えていきます」と書かれていました。メールを何度も読み、言葉にできないほど感動を覚えました。

私は講座の最後でこう言ったのです。「言葉はよく壁にたとえられますが、本当の壁は言葉ではありません。壁は心の中でできてしまうものです。心のない言葉はどんなに正確でも空々しい。心を言葉にのせて、初めて美しい言葉となって心を打つのです」と。つたない日本語ではうまく伝わらないだろうと思っていたメッセージは、想像以上に新潟の皆さんに受け止めてもらえました。教える側として教壇に立った私が、逆に皆さんからとても大切なことを教わりました。

心は世界の共通語

留学生の間で、「日本人とコミュニケーションをとるのは難しい」、「日本人に差別されている」という話がよく出ます。正直に言うと、私も学費を稼ぐために必死で働いていたのを、出稼ぎ目的のように言われたことがあります。同じ留学生でも、欧米人学生ばかりがもてはやされていると思い込んで傷つき、そんな感情が積み重なって、日本での暮らしをつらく感じたこともありました。

しかし、冷静になって考えたとき、自分自身も偏見を持っていたのではないかと気づいたのです。差別されるかもしれないと思う前に、自らも相手に偏見を持っていないか自問すべきです。確かめもせずにイメージで勝手に決めつけることも一種の差別ではないでしょうか。世界のどこでも偏見や差別意識を持つ人がいないわけではありませんが、お互いの理解と尊重を重んじる人々が絶対多数であることも間違いありません。外国でたとえ言葉があまり通じなくても、真意と善意を持っていれば心は通じるはずです。心こそ本当の意味での「世界共通語」ではないでしょうか。

身近な親善大使として

米山奨学生になってからつくづく感じるのは、ロータリーが経済的にだけではなく精神的にも大きな支えになっていることです。ロータリーの社会奉仕・国際理解の精神は、単なるスローガンではなく、親切なロータリアンそのものだと思身に染みて感じます。私もその精神を学びたいと思っています。それを学ぶことを含めて、私達留学生には何ができるでしょうか。

これからは「アジアの世紀」とも言われますが、アジア諸国の相互理解はまだ浅いレベルにとどまっています。われわれ留学生は、日本人の最も身近にいる親善大使と

して、限らない活躍の場を与えられています。日本の皆さんに母国のことを、母国の人々に日本のことを、言葉や文化とともにその心を伝えていくことは、私達に与えられた使命だと思います。どこに行っても、心を大切に
する人間は孤独になりません。世界中の人々がお互いに話し合おうとすれば、戦争を起こす理由は一つも見つからないはず
です。私はそう願って、信じています。

(コーナー担当: 赤尾 恭雄)

◆委員会だより◆

職業奉仕委員会

委員長 関岡 俊二

< R I 2750 地区職業奉仕委員長会議に出席して >

会議は、さる 9 月 24 日、新宿ホテルセンチュリーハイ
アットにて開催された。

鈴木 弘地区職業奉仕委員長、秋山パストガバナーほか
が出席。

10 月は職業奉仕月間である。四大奉仕の第二奉仕部門で
ある職業奉仕とは何かという議論は永年の課題であり、
今でも理解に努めることが命題となっている。

職業奉仕の原語は Vocational Service である。V
ocation とは単なる職業との意ではなく、神のお召し、
天職を意味する。自己の職業を自分自身に与えられた天
職と認識してその向上に努め、職業を通じて奉仕するこ
とが大切と思われる。ロータリアン一人ひとりが自己の
職業に誇りを持ち全うすることが、周囲からの信頼を得
る大切な要件でもある。かつてアメリカの大不況の折、
ロータリーの一員であるということで社会的信頼を大い
に得たといわれる。

我がクラブも、今年度職業奉仕委員会の方針を、ポール・
ハリス語録にある「社会のニーズに貢献する最も身近で
適切な手段は、自分の職業を高揚させること」としてい
る。特別月間に因み、職業奉仕の理解を深めていこう。

SAA委員会

委員長 根本 泰守

委員会だよりを改めてもとめられても、さて何を書けば
よいものか。SAAの役割は何だろう。既に2回程炉辺
会議を開いたが、具体的問題点は何もなく、雑談に終始。
でも、現在の様子や流れを見ていると、それで良いの
ではないかと思う。あまり格式ばらず、例会が終了後、全
会員が気持ち良く帰途につけるような運営方法を心掛け
たい。外国のクラブもいくつか廻ったが、針金をピン
と張りつめたような運営をしているクラブもあれば、昼
間からアルコールを飲みながら和気藹々の運営をしてい
るクラブもあり参考にはなるが、現在の当クラブのSAA
の運営方針に2~3の手違いもあったが、合格点はつ
けられると自己採点しています。一寸、甘いかな？

(コーナー担当: 正房 正孝・高木 淳光)

ポール・ハリスを我々の心に! Part 8

ある日、スーおばさん(母の姉)がポール達家族の様
子を心配して急に訪ねてきた。ポールの母は自分の子供
達の面倒を見なければと、勇気と決意と体力をもって立
ち上がったが、インテリで学歴もある父には勇気も決断
力も体力もなく、世間の重圧に耐えられる人ではなかつ
た。

色々話し合った結果、スーおばさんの熱意にほだされ、
州戦争で夫を亡くし子供のいないおばさんがセシルを引
き取り、母が妹ニーナ・メイと暮らしている西部の町近
くに落ち着くことになった。家族離散の生活は一時的で
はなく、ニューヨークのケンブリッジの一時期とバーモ
ントのフェアヘブンのやや長期間を除くとずっと離れ
ばなれの生活だった。結局、ポールだけがウォリングフ
ォードの祖父母のもとに残されることになった。

スーおばさんがセシルを連れて行ってから暫くして、
ポールは一人の少年(フェイ・スタッフォード)を意識
するようになった。髪は真っ赤で性質は素直だった。二
人は長い間仲良くつきあったが、大きな意見の衝突もな
く良いことも悪いことも何時も一緒だった。

二人は同年配でフェイは2月生まれ、ポールは4月生
まれで似合いの友達だった。ポールは「人間形成期にフ
ェイと一緒にいたことは、人生を豊かに楽しくしてくれ
た友達は沢山いるが、フェイがその最初の友達であり、
あの御影石の丘に住んでいた赤毛のフェイに勝る友達はい
なかった」と言っている。

ある冬の土曜日のこと、二人でベア山に登ることにし
たが、冬の日には短いのでその日は登れるところまで登
ることにした。祖母には本当の目的は話さない方がよいと
思い、表向き日帰りのハイキングに行くことにした。祖
母はハイキングと言われて特に反対しなかったが、凍っ
ている山に登るのは危険だと注意した。その上「山に登
りたかったら夏に登りなさい。冬、ぶらぶらと山へ出掛
けるものではありません。」と付け加えた。



少年達に幻想の世界を
与えてくれた冬の大雪

フェイの返事に
は元気があった。
「ハリスおばさん。
山が其処にあるん
です。ですから登
るんです。ポール
と僕以外に登る人
なんかいません
よ。」
祖母は納得した訳
ではないが、二人
で言うので結局諦
めてしまった。

(コーナー担当: 赤尾 恭雄)

「ロータリー知識」 入門編

＜親睦と奉仕＞

ロータリー運動の実態を表した言葉に「入りて学び、出で奉仕せよ」という言葉があります。世の中のあらゆる有用な職業から選ばれた裁量権を持った職業人が、週一回の例会に集い、例会の場で、職業上の発想の交換を通じて、分かち合いの精神による事業の永続性を学び、友情を深め、自己改善を計り、その結果として奉仕の心が育まれてきます。この例会における一連の活動のことを「親睦」と呼びます。例会で高められた奉仕の心をもって、それぞれの家庭、職場、地域社会に帰り、奉仕活動を実践します。これが理想とされるロータリー・ライフです。ロータリー・ライフの一方の柱はクラブ内の活動を通じて行われる「親睦」すなわち「奉仕の心の形成」[理論構築]「ロータリー活動の前提」であり、これらのことを行うのは例会であり、もう一方の柱は、クラブ外で個々のロータリアンによって、家庭、職場、地域社会を対象として行われる「奉仕活動の実践」であり、それが「ロータリー運動の結果」となるのです。

従って、ロータリーの親睦即ち「奉仕の心の形成」が欠けるとロータリー運動そのものが成り立たなくなることから、これに関係する幾つかの具体的な約束ごと、即ち一業種一人や例会出席規定などはロータリー運動成立の必要条件と定められているのです。必要条件はロータリーの理論を構築する哲学であり、これを否定することはロータリーを否定することになります。如何なる理由(会員増強の為等)があったとしても変更や勝手な解釈を加えてはならないと考えます。

(コーナー担当：遠藤 二郎)

会・員・の・声

酔芙蓉(すいふよう)の花が咲いた！

大松 誠二

我が家の庭に植えた酔芙蓉が一輪だけ咲いた。割と大柄な花だが色は白く淡い。昼過ぎ、お酒に酔ったような赤みを帯び、夕方にはすっかり出来上がり(?)散ってゆく。それで花の名は酔芙蓉、一日限りのこの花は、富山県八尾町で手に入れて植えたもの。そう、八尾(やつお)と言え、＜越中おわら風の盆＞のお祭りの町、普段は水と坂の静かな町が9月の初めの3日間、低く高く哀調を帯びた胡弓の音がぼんぼりに灯された町並みに流



れると、どこからともなく法被の男衆、編笠の女衆がおわらの唄とともに続く。緩やかにしなやかに、手が足が舞い、次

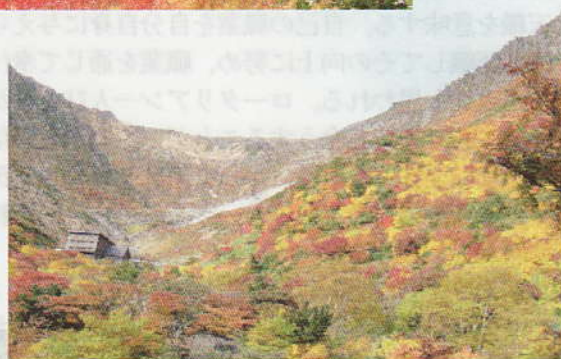
第に静かな興奮に人々に包まれていく。幻想的な、夢を見ているような舞台に人は酔い、更けてゆく夜を忘れる。2万人余りの町に全国から30万の人が訪れるという。「風の盆恋歌」(高橋治作)で男と女の出会いと別れの場面に咲いていた酔芙蓉の花は、私の先祖の出身の地でお墓がある町八尾とともに私にとって忘れられない花なのです。

夢遠く 風吹きわたり 酔芙蓉

消えゆかん 想いのそばに 酔芙蓉

(コーナー担当：澄川 昇)

＜安達太良山は紅葉真っ盛り＞



智恵子は東京に空が無いといふ。

ほんとの空が見たいといふ。

.....

智恵子は遠くを見ながらいふ。

阿多多羅山の山の上に

毎日出てゐる青い空が

智恵子のほんとうの空だといふ。

—高村光太郎—